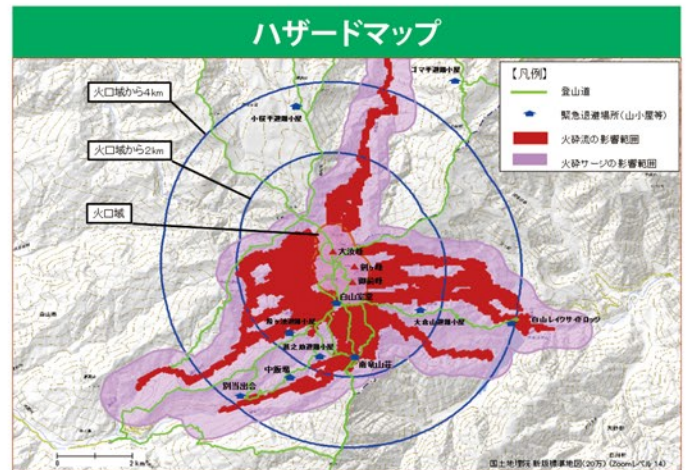


白山の火山噴火対応

白山は火山噴火予知連絡会（気象庁）により「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」に選ばれており、過去1万年間において少なくとも23回の水蒸気噴火とマグマ噴火の発生記録が確認されている。

白山火山防災協議会では、白山の想定火口領域や、大きな噴石・火砕流・融雪型火山泥流の影響が及ぶおそのある範囲を地図上に特定したハザードマップを公表している。



(石川県ウェブサイトより引用)

● 火山噴火で起きる現象

噴石	<ul style="list-style-type: none"> 爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされた岩石が落下する現象である。 大きな噴石は風の影響を受けずに全方向に弾道を描いて飛び散る。 小さな噴石は風に乗って遠くまで到達する。
降灰 小さな噴石	<ul style="list-style-type: none"> 噴火により噴出した粒径の小さなもので、直径2mm未満のものを火山灰と呼ぶ。 粒径が小さいほど上空の風に流され、火口から遠くまで飛来する。 日本では偏西風の影響のため東側に広がることが多い。
火砕流	<ul style="list-style-type: none"> 高温の岩やガスなどが混ざって、高速で流れる現象である。 爆風で建物が壊れることもある。
溶岩流 溶岩ドーム	<ul style="list-style-type: none"> 高温のマグマが火口から流れ出すものを溶岩流という。 マグマのねばり気が高いと、溶岩が流れずに盛り上がった溶岩ドームを作る。
降灰後の土石流	<ul style="list-style-type: none"> 堆積した火山灰等が、雨によって土砂を巻き込み流れ下る現象である。 土石流が谷を流れる速度は、時速10～数10kmに達する。 降雨のたびに繰り返し発生するのが特徴である。
融雪型火山泥流	<ul style="list-style-type: none"> 噴火で噴き出た高温の火山灰等が、火口付近の積雪を急速に融かすことがある。 雪が融けて発生した大量の水が、周辺の土砂をまき込みながら流れ下る現象である。
山体崩壊 岩屑なだれ	<ul style="list-style-type: none"> 火山が噴火や地震によって大規模に崩壊する現象である。 「岩なだれ」は、山体崩壊で崩れた大量の土砂が斜面を高速で流れ下る現象である。 岩屑なだれがたまると、小さな丘がたくさん作られる。

● 火山噴火緊急減災対策砂防計画



火山噴火緊急減災対策砂防のイメージ
 出典：火山噴火緊急減災対策砂防計画策定ガイドライン(平成19年4月 国土交通省砂防部)を一部改変

金沢河川国道事務所では、白山が噴火した場合に緊急対策を迅速かつ効果的に実施し、被害をできる限り軽減(減災)するため、学識経験者ならびに行政担当者から構成される「白山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会」により検討を進め、令和3年3月に白山火山噴火緊急減災対策砂防計画を策定した。その上で、ハード・ソフトから成る緊急減災対策を円滑に進めるために平常時から準備すべき事項について整備を進めている。